

—— 聴覚障害者及び視覚障害者のための大学 ——

筑波技術大学ニュース

第 31 号

発行日：2014年 3 月

www.tsukuba-tech.ac.jp



国立大学法人

筑波技術大学



筑波技術大学では、筑波技術大学ニュースのメール配信を行っております。ご希望の方は、件名を「筑波技術大学メール配信希望」、本文に、「団体名（個人名）」をご記入の上、筑波技術大学総務課企画・広報係（kouhou@ad.tsukuba-tech.ac.jp）までメールにてご連絡ください。



3月20日、天久保キャンパス講堂において、平成25年度筑波技術大学学位記授与式を挙行し、卒業生88名、修了生3名に学位記が授与されました。詳細については4・5ページ目の「平成25年度筑波技術大学学位記授与式を挙行」をご覧ください。

● 平成 25 年度海外研修事業報告会（欧州・中国・米国）を実施

2月21日、天久保キャンパス大会議室において、筑波技術大学基金及び日本学生支援機構からの助成を受け平成25年度に実施した海外研修事業のうち欧州研修、中国研修、米国東部研修、米国アイオワ大学研修について、派遣学生による報告会が開催されました。報告会には教職員、学生が多数参加し、引率教員の話に引き続き学生からの報告があり、活発な質疑応答が行われました。

欧州研修（7月15日～25日）については、保健科学部情報システム学科2年生の松尾政輝さんから、欧州各国から視覚障害学生が集まり共同生活を通して相互理解を深めるサマーキャンプ「International Camp on Communication and Computers (ICC)」の様子が報告されました。今回のサマーキャンプは、チェコのテルチで開催され、期間中に色々なテーマの11ものワークショップに参加し、充実した10日間のスケジュールをこなしたようです。

中国研修（9月1日～9月6日）では、保健科学部の学生2名と産業技術学部の学生2名が合同で、姉妹校の長春大学特殊教育学院を訪問しました。ここではそれぞれの専門に関わる内容の授業を受講したり、中国の教員や学生の皆さんとの交流を図ったりしました。保健科学部保健学科鍼灸学専攻3年生の渡邊到さんからは、推拿（按摩）手法学、推拿手法実習、小児科推拿学、外科推拿学、経絡腧穴学等の東洋医学の授業を受け、さらに深く学びたく、留学も考えていることや、中国推拿を学んだことで手技の幅が広がったことなど熱のこもった報告がありました。産業技術学部産業情報学科3年生の小向翼さんから、毎日2コマの授業を受け、充実した時を過ごしたことが報告されました。また、研修期間中、時を同じくして中国に帰国していた留学生の崔鶴さんが、長春の学生さんに本学の紹介と留学で学んでいる事柄の講演を行ったことも報告されました。

米国東部研修（9月11日～9月22日）については、保健科学部保健学科鍼灸学専攻2年生の水上次郎さん、保健科学部情報システム学科2年生の成瀬真吾さん、産業技術

学部産業情報学科システム工学専攻3年生の藤田康平さん、同1年生の菅野啓太さん、産業技術学部総合デザイン学科1年生の日影館美樹さんと遠田紗恵さん、産業技術学部産業情報学科情報科学専攻1年生の設楽明寿さんらの派遣学生全員が分担して報告していました。ニューヨーク州立大学バッファロー校で英語を学ぶクラスを受講していた保健科学部の学生さんからは、授業がプレゼン形式で質問も多く活発で、アメリカらしさを感じ、また、英語の存在感も実感した、との報告がありました。産業技術学部の学生はバッファローでの研修からロチェスターに移動しての研修となり、国立聾工科大学／ロチェスター工科大学（NTID/RIT）の専門の授業を各自の専門に合わせて受講した様子、手話通訳やパソコンノートテイクの支援を受けながらの専門科目の授業の様子が報告されました。

米国アイオワ大学研修（9月15日～9月25日）については、保健科学部保健学科理学療法学専攻2年生の太田卓司さんと能智悠史さんから報告があり、研修のおかげで自分の将来を考える選択肢が増えたこと、国による医療現場の違いを肌で感じたこと、理学療法士の仕事に対し更に責任感を感じるようになったこと、などが述べられました。現地の学生との交流の中で積極性を見習うべきことに気づき、学習意欲が増した等、貴重な体験ができ大きなプラスになったようです。

多くの派遣学生から「海外研修においてコミュニケーションをはかるためにも語学をしっかりと学んでおくことが必要である」との意見が聞かれました。海外の姉妹校で障害者が学んでいる授業と一緒に参加し、それぞれの国の素晴らしい文化・技術を肌で感じながら貴重な経験ができたようです。

また、今回は保健科学部と産業技術学部合同の報告会でしたので、発表に関しても互いの障害に配慮しながらのプレゼンテーションとなりました。

（国際交流委員会 荒木 勉）



ブレイルメモを手に取り、報告をする松尾さん



米国東部研修について報告する産業技術学部生

● 「障害学生支援交流会 第2回研修会」を開催

2月21日、春日キャンパスにおいて障害者高等教育研究支援センターによる「障害学生支援交流会 第2回研修会」を開催しました。

本研修会は、大学等で障害学生支援に関わる教職員を対象に、障害学生の支援に関する考え方及び知識や技術について理解を深め、さらに大学間の交流を深めることを目的として開かれています。関東の大学を中心に12大学から18人の参加者があり、熱心な意見交換が行なわれました。プログラムの最初は、全国障害学生支援センター代表の殿岡 翼氏（文部科学省「障がいのある学生の修学支援に関する検討会」委員）に、『大学における合理的配慮と“差別解消法”』を講演いただきました（この講演は、筑波技術大学FD研修会としての位置づけもありました）。その後、2つの分科会に分かれ「支援体制の整備」「視覚障害学生の支援」について意見交換が行なわれました。この分科会の報告を受けて、全体討論では各大学の状況や課題について参加者全員で話し合いました。参加者の中にはこれから障害学生支援を始めるという大学も多く、（今回の研修会の内容が）すぐに役立ちそう、という声が聞かれました。他

にも、本学のバリアフリー環境と視覚障害支援機器を見学する学内ツアーが行なわれました。

（障害者高等教育研究支援センター 宮城 愛美）



講演に聞き入る参加者

● 第3回視覚障害者の就業の疑問に答える講座を開催

「視覚障害者はどのような仕事ができるか分からない」「会社のどの部門に配属させたらよいかわからない」、このような企業からの疑問を受け、過去2回講義形式で講座を開催してきました。

2月13日に開催された第3回目では、過去2回のアンケートで好評だった情報システム学科学生のパソコンによるデモンストレーションと実際に視覚障害者を雇用している企業の事例発表をメインに実施し、企業の人事担当者を中心に15社21名が参加しました。

学生のデモンストレーションでは、情報システム学科3年生10名と4年生1名の計11名により、それぞれ工夫を凝らしたデモを行いました。実際に視覚障害者を雇用している企業または本学OBを採用しているリコージャパン（株）、（株）富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ、NTTクラリティ（株）、これら3つの企業に依頼し、視覚障害者の業務と能力について、事例発表をしていただきました。

その他の内容としては、本学教員から視覚障害補償機器の紹介と機器室の見学会及びヘルスキーパー制度の導入についての説明がありました。

参加者からは、文字の読み上げソフトを活用しての操作について、「すごく速い速度で聞き取れることに驚いた」「音声だけでプログラムを作っていることに感激した」、また、

画面の拡大については、「特別なソフトを購入しなくても標準装備で対応できることを知った」「企業の現場での職務や業務能力をよく理解できた」などとても好評でした。

また、当日実施したアンケート結果も、とても有益で視覚障害者を雇用してみようと感じた企業が多く、今後の就職活動に対して大きな一歩となりました。

（情報システム学科 嶋村 幸仁）



講堂での講座の様子

● 平成 25 年度筑波技術大学学位記授与式を挙



3月20日、天久保キャンパス講堂において、平成25年度筑波技術大学学位記授与式を挙

今回、学位記の授与を受けた者は、産業技術学部50名、保健科学部38名、合わせて88名の学部卒業生及び大学院修士課程技術科学研究科産業技術学専攻1名、同研究科保健科学専攻2名、合わせて3名の修了生でした。

授与式では、村上学長から卒業生及び修了生に学位記が授与された後、学長から式辞が述べられました。

式辞の中で学長は、「これからの長い人生の中で岐路に立ち、重大な選択を迫られることが必ずあります。その時、進む道を自らが選択できるのであれば、邪心ではなく、自分自身の良心に従って判断し、決断することです。しかしながら、社会の中では、自分の思いどおりにはならず、他の人が決めた結果に従わなければならないことがほとんどです。この時、最も大切なことは、自らが望み選択した結果なのか、自らの望みに反して、他の人が決めた結果なのかに関わりなく、後々「この選択で良かったのだ」「この道に進んで良かったのだ」と思えるように努力することです。未来に向かって地道な努力を積み重ね、より良い社会自立を獲得して下さい。」と述べました。

これに対して、卒業生及び修了生からそれぞれ謝辞が述べられました。



● 韓国ナザレ大学の聴覚障害学生を短期留学生として受け入れ

1月14日から22日にかけて、韓国ナザレ大学のユニバーサルキャラクターデザイン学科の聴覚障害学生3名と教員1名が、昨年に引き続き「国際教育短期受入プログラム」として来学しました。この間、デザイン関係の専門科目や障害関係科目、日本語などを受講しました。「日本語」や「手話」の授業は3人への特別授業として行われましたが、他の授業では本学の学生とともに通常の開講科目に出席して作品作りなど熱心に受講していました。授業の際の情報保障は、本学研究生の韓国人留学生をチューターとして配置し、授業の日本語と日本語手話の説明をパソコンで韓国語文字に翻訳し、モニターや携帯型タブレット機に文字表示をして支援を行い、また、日本語手話と韓国手話の相互の通訳を行う支援も行いました。最終日には村上学長も出席して学習成果報告会を行い、各自が日本語（韓国語から翻訳）で作成した資料を用いて受講内容や感想などを韓国手話で発表しました。また、報告会と科目の受講状況を評価して本学から3名に修了証が交付されました。このプログラムは、日本学生支援機構が日本への留学を促すために、平成25年度留学生交流支援制度（ショートステイ）として募集したプログラムに採択されて行ったものです。また、筑波技術大学基金からの留学生に対する支援も受け実施しました。



授業を受ける韓国からの留学生

今回、チューターとして支援を行った韓国人研究生のイ・ジスさんは、平成23年度に同様のプログラムに参加し、その後、本学の特別聴講留学生として1年間デザインを学び、今年度は研究生として本学に在籍しています。また、昨年本学の大学院に合格し、今年4月からは大学院生としてデザインを深く学ぶ予定です。

（総合デザイン学科 金田 博）

● Dr. Antony Porcino と語った日本の手技療法教育

3月14日、カナダのブリティッシュコロンビア大学のDr. Antony Porcinoが保健科学部保健学科鍼灸学専攻にいらっしゃいました。

訪問の理由は二つ。まず、私達の研究領域であるマッサージの研究デザインについて議論すること。もう一つは、高等教育として、あん摩マッサージを4年課程で教育している本学にたいへん興味を持ったからとのことでした。

日本の手技療法教育の根幹はあん摩施術指導であり、臨床的にもあん摩がもっとも多く行われています。一方、北米では、マッサージという療法の中に約40種類を数え、『マッサージ』と言っても施術の内容はセラピストによって大きく異なるとのことでした。また、マッサージ教育は専門学校で行い、授業時間数も日本の基準の約4分の1程度です。

「素晴らしいですね」と日本語で博士。

日本には、手技療法（あん摩マッサージ指圧）教育の伝統が息づいています。さらに、現代欧米の施術やその理論も学びながら学問としての質と魅力を高めていく必要もあると思います。

博士と鍼灸学専攻教員とのディスカッションは有意義で楽しいものでした。

※ Dr. Antony Porcino プロフィール：

Executive Editor, International Journal of Therapeutic Massage & Bodywork Project Director, CAMEO (Complementary Medicine Education and Outcome) Research Program, UBC School of Nursing and the BC Cancer Agency

（鍼灸学専攻 殿山 希）



Dr. Antony Porcino を囲んでの記念撮影

● つくばスポーツ大賞 2013 グランプリ・つくば市長賞を受賞

3月16日、イオンモールつくばにて開催された「つくばスポーツ大賞 2013」授賞式において、本学在学学生や卒業生が活躍するブラインドサッカーチーム「F.C.Avanzareつくば」がグランプリ・つくば市長賞を受賞しました。

つくばスポーツ大賞は、Vision ネットワーク（つくば地域スポーツ振興ネットワーク）が主催し、つくば市も共催する今年で7回目を迎えた賞です。その年に活躍したスポーツパーソンや団体を表彰することで、地域スポーツ関係者に限らず、多くの地域住民にその取り組みをPRし、スポーツコミュニティを活性化することを目的としています。また、競技成績だけでなく地道な活動や手本にすべき活動にもスポットを当て、子どもから高齢者まで、地域住民に夢と希望を与える取り組みを紹介することで、研究、教育に次ぐ「スポーツの街つくば」の構築を目指しています。

写真中央は平成22年度鍼灸学専攻卒の川村玲さんで、選手を代表してトロフィー、盾、賞状を受け取り、受賞ス



授賞式での記念撮影の様子

ピーチを行いました。なお、当日には様々なメディア（茨城新聞、常陽新聞等）から取材を受けました。

（情報システム学科 福永 克己）

● デザイン体験出前授業「パッケージデザインをしてみよう！」を実施

2月8日、神戸聴覚特別支援学校にて、デザイン体験出前授業「パッケージデザインをしてみよう！」を行いました。神戸聴覚特別支援学校中等部学生と通級生あわせて15名が参加し、チョコレートの味からイメージするパッケージデザインを行いました。授業の最後には、筑波技術大学とネットワークでつなぎ、先輩からの講評を行いました。

デザイン体験出前授業は、「聴覚障害者の専門性・協調性向上を目的とした教育資産環境構築事業」の一環として、教員が機材とともに出向いて行う授業です。

（産業技術学部 内藤 一郎）



スクリーン上で講評する筑波技術大学生

● 筑波大学と共催で合同企業説明会を開催

2月20日、筑波大学学生会館において、本学と筑波大学との共催で合同企業説明会を開催しました。この説明会は本学学生（産業技術学部、保健科学部、大学院技術科学研究科）と筑波大学の障害学生を対象としており、二大学の共催という形で初めて行われた合同企業説明会となりました。

今回の合同企業説明会は、二部構成で行われました。まず第1部として参加企業（7社）がそれぞれ自社の説明をする企業紹介があり、休憩を挟んだ後の第2部ではグループ分けされた学生が各企業のブースを訪問する面談形式の時間がとられました。

両大学の学生を合わせて約30名の参加があり、第2部では学生が積極的に質問をする様子が見られました。

（聴覚障害系支援課 学生係）



合同企業説明会の様子

● 平成 26 年度公開講座開設計画一覧

● 天久保地区

1	講 座 名	＜初心者のための総合 CAD 基礎講座＞ 作って学ぶ CAD とモデリング；3次元プリンタによる立体モデル製作まで		
	開催期間・時間数	未定 10:00～16:00（2日間・計10時間）		
	受講対象者	市民一般		
	募集人数	10名	受講料	3,000円
2	講 座 名	聾学校での造形教育に関する指導法		
	開催期間・時間数	7月25日（金）10:00～16:00（1日間・計5時間）		
	受講対象者	聾学校等の美術・図工・デザイン等担当教員等		
	募集人数	10名	受講料	5,000円
3	講 座 名	手話入門		
	開催期間・時間数	未定		
	受講対象者	市民一般		
	募集人数	10名	受講料	4,000円
4	講 座 名	ろう者学セミナー ～映画「名もなく貧しく美しく」と「ゆずり葉」を比較分析する～		
	開催期間・時間数	7月5日（土）14:00～17:30、7月6日（日）9:00～10:30（2日間・計6時間）		
	受講対象者	市民一般（手話使用者）		
	募集人数	15名	受講料	3,000円

● 春日地区

1	講 座 名	東西医学と健康の話		
	開催期間・時間数	6月20日～7月25日の毎週金曜日 18:00～20:00（6日間・計12時間）		
	受講対象者	市民一般		
	募集人数	30名	受講料	4,000円
2	講 座 名	医師のための鍼灸実践講座		
	開催期間・時間数	9月7日（日）・10月5日（日）・11月9日（日）10:00～15:00（3日間・計12時間）		
	受講対象者	医師・歯科医師		
	募集人数	10名	受講料	7,000円
3	講 座 名	統合医療で健康寿命を延ばそう!!－頸・腰・膝に効く!! ロコモ対策－		
	開催期間・時間数	未定		
	受講対象者	市民一般		
	募集人数	30名	受講料	2,000円
4	講 座 名	いきいき健康講座－膝に不安を持つ方への運動療法－		
	開催期間・時間数	未定 10:00～16:00（1日間・計5時間）		
	受講対象者	市民一般		
	募集人数	10名	受講料	2,000円

※上記日程は予定であり、変更になることもあります。最新情報は本学ホームページ（http://www.tsukuba-tech.ac.jp/social_contribution/open_lectures.html）でご確認ください。

筑波技術大学ニュース 第31号

発行日 平成26(2014)年3月

E-Mail kouhou@ad.tsukuba-tech.ac.jp

発行 筑波技術大学 広報室

〒305-8520 茨城県つくば市天久保4丁目3-15

Tel 029-858-9424

編集 筑波技術大学 総務課

Fax 029-858-9312

URL <http://www.tsukuba-tech.ac.jp/>